平新報

發行日 月三回 5.15.25.日發行
編集兼發行印刷人 山野邊庄吉
福島縣磐城市大字岩出字向二八
發行所 平新報社
一部定價拾円送料八円
廣告料 一行 五十円

破邪顯正は一展して 勸善懲惡で進む

諸橋市長の三選批判 長瀬議長の不人情振り

平新報社長 山野邊眞立

本紙前號に關内正一氏代議士立候補斷念?、と報じてた、何も彼が政界を引退と決定的に報じたのではないそれなのに彼は再起の野心があり筆者に抗議を申し込む、實に割り切れぬ人だ、油商と政治、これは反比例するのだ、代議士立候補を斷念!すれば必ず油商は逆に發展する!、品子夫人は勿論古き番頭等は内心氏が家居さるるを喜んで居る、店頭指揮をせざる迄も代議士立侯の準備の勞を油商に向けるべきである、昔は鐵は釜屋、油は關内小名、江名の船主連は關内の油をつかつて關内への借金を棒引にしてもらつた事がある、要は政界引退でない代議士立候補を斷念後で……平市長に推すというのだ、諸橋久太郎第一回市長立候補の折それが事務長として病氣臥床中だつた、故鈴木辰三郎翁を向うに廻して戰つて見事勝ちを得た時の氏の舌戰迫力は稱讃されたものだ所謂、革新会の大嶽庫、柴田德二、萩原義雄、故山野邊義政、永山勇吉等々眞に正義觀念?の强い面々が期せずして、故鈴辰派者流强口、阿部助役、打倒に向つて市制刷新に向つて釜屋というミコシをかついだから勝つたので、然し辰おんちやんが万一、健康体だつたらいくら關内が頑張つても勝てなかつたろうと筆者は斷言する、第二回目の諸橋市長立候補には關内は、吾れ關せずで居つたが、その間の狀勢は政敵、野崎の立候あり野崎滿藏が自ら出たのか、萩原らが立てたのか野崎を立てた眞意は、諸橋排擊にあつたのか、大分、關内の言動に對して批判を耳にしたが、關内彼の目的は故鈴辰派者流の横暴を憎んで居つた、その横暴を諸橋はおさい切れない、諸橋は商人である、且那樣である円滿主義である、伊藤秀吉翁とは商工会議所からのくされ緣で緣をたち切れない、此處に諸橋の人情味ある美點だが、公人、市長としては公私混同して居る、秀翁は確かに悪い事はせぬであろう、然し故鈴辰派者流共の土木關係もうけを排擊する氣力はないこんな意味で、第二回諸橋市長實現は伊藤助役のスリカイは成功しなかつたが、革新会の目的は九歩通り成功した。伊藤助役の二期は諸橋市長の人情味を買つてやるべきである。助役は女房の樣なものである、そうかんたんに緣を切れるものじやないそうでしよう、關内さんその間の、關内の心事を釜屋系の親族阿部さんイセヤ等よつく考えて關内のあの當時とつた、言動に對して關内の眞意がどこに在つたか御大久太郎氏の平市長として眞に破邪顯正の處理をして居つたか、政治は商法じやない、筆者眞立は冷靜に公平に批判の筆を採る。輿論じやない、市民の總意所謂投票の数の多少必ずしも正しいものでない、これが民主々義に逆行して居る。

諸橋久太郎氏市長三選について

山田盤磨氏筆者の意見に大贊成、それが氏の持論であつたらしい、余談は恐す!! 諸橋元三郎氏一言もふれない、平一丁目坂本紙店、昌藏氏母堂、諸橋市長實姉曰く、諸橋を三選させぬのか同席した、鯨岡多久氏無音筆者曰く、三選も、五選も出れば當選するであろう。又、筆者には三選とか五選とか何とかの權利がない、然し市長は八年間で、たくさんだ、十二年なんてやるべきでなく、そのうち自分ではボロを出さぬとも部下がどんな事をするか知れぬ釜屋の名譽、消極的のために三選に出すべきでなく、後進を推すべきだ、これ又余談は略す

◈山野邊久利氏あまりヤジを飛ばすな

◈湯本の紋屋、町田氏良い事をかいたネ、殊に野武さんの「夫人を教育してかゝれ」は本當だ、選擧は奥さんの言動が影響する事は眞實ですよ、あれは野澤ばかりでなくどの候補者にも關係する事で、候補者そのもののよりトリマキ連の言動だよだから候補者の夫人は勿論家族、番頭運動員余談は略記。

本紙前號報導の反響を聞くべく農繁期なれど鐵脚縱橫よろしく努めたのだ、此の稿ものするまではそれの反響のヒビキを打診の確證を得ざりしは殘念であるその人々左記

◈猪狩四郎、關内正一仝品子夫人、大和田與兵衛、仝夫人、大嶽庫、駒木根忠三小泉ワカ(故小泉宗雄夫人)諸氏小泉兩夫人には親しく會つて大いに對談した、がいずれ紙面の許す折に發表する事とします。安雄夫人は元教育者で主人安雄氏は磐城市の企劃課長の現職に在り、今回の駒忠事件の土地買売については、筆者は關係あるのではないかと内心、心配して居つたが、夫人の話ではないらしい、安雄氏は筆者と近い親族である、又夫人は二八会友故藤村千壽氏の實妹である、次にワカ夫人は筆者夫妻の眞の月下氷人たりし、恩人で今は主人宗雄氏に先立たれ眞に孤立奮闘、長子哲らやんの孫さんを相手に、さびしく余生を送つて居る。

長瀬彰義さんの家から故宗雄氏の母が來て居るので、どんな事情があつても、彰ちやんは故宗雄氏としてのつながりあつても面倒を見なければならぬ立場に在る然るに彼、議長は面倒を見る所ではない、議長の地位を乱用してワカ未亡人を逆待するという噂を聞いて居つたので、その眞相を確かむべく、故宗雄氏に燒香すべく、去二十三日午後、雨降りなので、稻刈りも出來ず、四五年?振りかで、飯田の腰卷安雄氏のうちは「コシムキ」というを訪れた昔なつかしい、本屋は立派に出來たが、隱居は昔のまゝだ、梨の木はない林城から飯田舟戸から久保へ通ずるだろう。

あの道路、正に議長(林城)橋本雄吉、(金成)橋本佐多喜(金成)小泉安雄(市企劃課長)(飯田)それに金成からは柳井五郎(共濟組合長)こういう人々が、一丸?となつて居るだろうから道路(市道縣道ではない)實態は縣道以上だ、岩出等はマゝ子扱いにされるのも無理はない、その道路の完成に際して小泉ワカさんは水田をツブシ瀬戸山の土を寄附し犠牲は通り越して强奪された、セト山の土、昔からセト山の木を伐るだけでも緣起をかつぐものである、それを直角に土をとつた、實にむごたらしい事をするものだ、そして、なんらの設備もしない補てん工事をして居らぬ〇〇千萬である、人は地位をかいて考いねばならぬ、議長のセト山をぐずして道路の埋立土に利用したとしたら、議長はどんなつもりだろう。勿論、宗雄氏が健在であつたら承諾もせまいし、これは末結果論になるからやめる、がワカ夫人が涙ながらに、筆者に訴へる言葉に僞りはない西隣りの昇氏は大藏氏と從兄弟である、彰義夫妻の仕打實に殘虐極りなきものがある、ワカ夫人は自殺の決意もした事あるとか、筆者とワカ夫人の對談には林城のミツギさん夫人(舟戸から來た人、西鄕の故ロク爺の姪)に當る人、が同席せる事を斷つて置く、ワカ夫人の訴える言々句々は筆者が、記錄して居るが涙なくしては考いられぬことだ、この意味で私憤、公憤併行してどうしても彰義征伐には死を賭して當らねばならぬ、意を强めざるを得ない破邪顯正等とはまつて居れぬ、勸善懲悪だ! 筆者はニガイ体驗があるが村八部程つらいものはない、とうくの親族はどうでもよいぢき西隣りの升さんと、なか互いにそれにつれて酒屋に出入りをとむ!とは何事か筆者は故宗雄氏に代つてワカ夫人を逆待する事に筆誅を與えざるを得ない、彰義氏が金と酒と權力で戰いを挑むなら筆者は平新報の筆器がある、名譽毀損や、そんなもの氣にして新聞の筆をとれるものでない、磐城警察署長に斷つて置くがぶ告罪と殺人未遂罪はどちらが重いかね、長瀬彰義を口頭を以つて磐城署に訴えて居つたが、西という證人にまだ会いぬので正式な文書告訴は出來ぬが、兎に角署長のいう筆者に「万一の事あつたら捜査線上におく」という筆者に確約した言質は署長は司法警察官として忘れないでもらいたい、これは私憤かも知れぬが湯本に兄若松修一氏宅に沈んで居らるる、やつちやんには時折週りが實に氣の毒である若松修一氏が、今以て筆者の進言を以てしても彰義を許して與れぬは無理もない、彼彰義の玉川助役時代現夫人菱沼から長瀬を名乗り酒屋に乗り込む狀情は教育者として默認出來る事でない、こういう心の持主の人が婦人会長とか、何とかの役につかせたりつくのだから婦道とか、教育等は論語讀みの論語知らずになつて了う、大字林城はいん風のすさんだ農村に在らず色街になつたのだ、小泉忠文若松清彌、離れ離れと幾百の道德犯罪者社会に害毒を流す、家庭を乱す奴はよつく吾が胸に手をあてて反省すべきである、家庭を乱す家庭をくらくするこれが世の中をくらくするのだ、それで闘々しく濶歩するのだから人面獸心でなくて何というか、長瀬議長のハイヤーで市役所通ひは何人も公憤をおぼいて居る、かつて水野政次郎町長が東京へ陳情出張の際、議員どもが二等でと話したら、二等で行つたら陳情が成功するのかそれとも早くつくのかというて、この議員どものぜいたく音を排して、三等で行つたそうだ勿論、この折三等の料金しか市財政からとらなかつたろうと思う。

この意味で、水野翁は市財政を乱費しなかつたと聞いて居る、處がこの程の市長初め橋本雄吉外何名かの九州旅行は大分批判の的となつて居る、一体兩橋本でも立候補の際の挨拶はハガキで印刷してどういう公約をして居るのだ、長瀬彰義は問題外だが、兩氏とも今少し吾らの議員として玉川地區の選擧民の心を心として確固たる信念の下に行動して欲しいものである、あまり岡のぼせると筆者の筆は彰義に追隨する、惡に加擔するものとして兩議員の批判も舊玉川村民の聲として矢を向ける、兩氏とも親族代表蔡正会代表であつてはならぬ筈だ、舊玉川村民(へ小選擧區だから筆者はかくいう)の代表で議員であらねばならぬと共に磐城市会議員であろう議会がある時などはそれが支持者には是非傍聽してくれ、位の連絡あつて然るべきでないか、立候補の時ばかり頭をかるくして、頼のむとか何とか下手な演説をして聲をからすより、今回の如き駒忠事件の時こそ聲をからすべきでないか、兎に角筆者は兩橋本議員の言動は舊玉川村民に代つて監視する、これは何もせんいつでないですぞ、吾らの爲だこの聲は筆者の言でない、金成の婦人会の人々が筆者に金成の新しい店で訴へた言そのままです原文のままという事があるが原言葉のままです。

(眞立)

平新報續刊贊援

大阪市西成區天下茶屋一丁目廿二
味 岡 寅

横須賀市安浦町一の五
沼 田 清 吉

コンクリ橋の足は 公道を侵略して居る

岩出字向若松清彌氏宅で門口をかいた事は、いま〳〵でないが、この頃門の橋をコンクリにする工事をしたその門口の前に筆者の水田がある。大分稲をそざし、又橋の足が道路に入つた、こういう工事は大字區長は勿論、隣地の地主に前以つて承認を求めて、工を起すべきである、コンクリは永久的なものである、あまりなめたやり方である。一昨日、養子の多喜男氏に遇然路上であつて質したが言を左右にして居る自分では事後承諾を得た心算だろうがこの場當りという事は、被害者の氣持を悪くするものだ、やしき(筆者のうちの屋號)はうしろ(清彌さんの屋號)は大してはなれて居らぬ、何が故に足を運んでくれぬのだろう、これも暴力化の一現象であつて大字の円滿をかく事である、私が常に唱導するのは、こゝなのである、善にしろ惡にしろ相互納得の上善處すべきで一方的では結果がまずい稲一本、馬にくわれてもおしいものである、事は賢明なる清彌さんは百も承知の事と思う、斷つておく山野邊清氏はいつもこんな事は潮めしまいで、コサ刈り所でない、こさ木伐を平氣でやつてその木をからして自家にはこんで燃料にする、被害者は筆者ばかりでなく、住吉の大黒や誰れ誰れと清さんの隣地所有者は清さんをうらんで居り憎んで居る!!…山野邊大藏さんもこういうことをやる、フト入りのクヌギ等は殊更に芽をとめて了い、自己所有の分は伐らない隨分我田引水の暴力を振うものだ、まだ〳〵この人は反省せぬところか、筆者に喧嘩をうつて來る納得處理をせぬ、自分は侵略されまい、他には侵略する、實に侵略心を持つ心の持主である、これ又破邪顯正で手ぬるい法訴で勸善懲悪の擧に出でん、但し何事も秋收穫後にするを斷つて置く、實際都会の人に判るまいが農家は猫の手もかりたい現境である。

◈追記…前文記中、小泉ワカさんの潰池は坪當り二百円になる勘定だが、同じ年に磐城市で買上げた、私の潰池は坪九十円だつたか、

どこでこの差があるのか磐城市土木課の土地買い上げ額がどうなつて居るのか納得出來ぬ、私の水田は昔の一等田、今の評價額一反〇二十四歩で二七、〇二五〇〇である。勿論ワカさんのも一等田であろう。馬上課長さんに、紙上質問しておく。

【反響】音信交換

大阪市西成區天下茶屋一丁目二十二番地
味 岡 寅

拜啓。平新報續いて御惠送下され御芳志有難とう御座いました。然るに小生高齡(八二才)微力外に御禮の爲樣もないので繼續覺束ないのですが、購讀料金に代え參百円御屆け致しましたから御受納願います。

一ケ月經めて御發送下さい

十月二十三日 頓首

× × ×

横須賀市安浦町一ノ五
沼 田 清 吉

謹啓。秋冷の候貴報益々御繁榮心から御慶び申上げます。扨て御繁忙中御手數を煩はし御惠送下さいます。平新報により遠隔の地に在り乍ら故鄕の香を嗅(かぐ)事が出來ます事を感謝して居ります。就いては僅少にて恐入りますが金一封(參千円)同封致します故。貴報御發展の一部に御加へ下さいますれば幸甚の至りと存じます。

尙吾等一族に貴殿の如き例一地方でも淨化の爲、報導陣の先驅者となりて御活躍下さる事を誇りに思つて居ります。「日本の淨化は先づ地方から」と思います。御健康を祈り乍ら益々御活躍あらん事を伏して御願い致します。御上京の折あらば御立寄り下さい。

先づは取敢えず御禮旁々御挨拶まで

十月二十二日

× × ×

南富岡

十月二十二日 水月莊一夢

前略。傾日は誠に好物頂戴御禮申上げます。

扨て貴紙左の通り配達致しました。泉の分、吉田透、吉田三郎、草野喜一、吉田勇送付方私宛にても宜しく小名濱分水素工場長大場閑雄、高木ウメ、渡邊保、草野道人、滕社大一、丹野政雄、南富岡、馬目武彌、兎に角十五枚を私宛隨時送付あれば泉、小名濱は配紙を(こゝよごれて判斷つかず)協力又集金も可能です。

× × ×

左の手紙は二十円の切手をはつて「親展」とあるが親展でもない樣なので野崎翁の意をくんで掲載致します。(原文のまゝ)

山野邊庄吉樣

昭和三十一年十月八日
野 崎 滿 藏

拜啓

初秋の候朝夕冷に凌き能き時節となりました。本年も大豊作で政界は兎も角一般大衆の心裡は喜ばしき次第であります。

貴台には引續き平新報を御發行被成地方文化の開發は勿論殊に常磐地區綜合開發の中心地たる平、常磐、磐城市の開發振興に寄與せらるる事は報導機關が先驅を爲すものと信ぜられます。

先日申上げました通り各人自己の權利を主張する事は民主々義の當然の行爲でありますが、やゝともすれば磐城地方人否殊に平地方は人の成功を妬み或は商売の繁昌を嫉妬心を以て競爭し或は邪魔する小心慾々として相當の地位に居るものがあることは遺憾の至りです協力して地方を發展せしむると云う一致協力の精神が欲しいものであります。

小生は少年學校に於て大抵首席を占めて居り小名濱にて高等小學校分教校卒業の歳に平に中學校が創設せられましたが大窪小使で寄宿舎は勿論平町で下宿を引受けてくれる處がなく遂ひ野田の御寺や大原の塾等に漢學を少しく勉强し、將來醬油製造業を志望して平の高利貸商売に婿入りした分家に際し遂ひ其の目的を達する事を得ず自暴自棄に陥り養母と物の別れとなり破産の浮目を見たが小生は如何に失敗しても恩を忘れず人に損をかけずと云う信念を以て渡世の目標とした芸妓屋に迄陥落したが、夫れでも恩を忘れず損をかけずと云う信念で料理店の勘定も小生位徒費すれば半分に切捨てゝ貰うとか或は三分の一まけろとかが普通だが、小生は一軒でも勘定をマケロとか或は借倒すと云う事は唯の一軒でも無い、

(以下二面へ)

(一面より)
後政治にも奔走したが總て飲み食いの勘定迄も小生が支拂を爲し人に御馳走になり放し杯と云う事は一回でもない筈だ縣会議員中滿十三ヶ年間如何に運動しても其の報酬として運動費を頂戴した事は一回もない、昭和二年小名濱商港開發議案が小生が頑張つて通過成立せしめた、其の後内務省、大藏省に陳情し出向した際小名濱、鈴木榮町長から金八十何円か旅費として送金頂戴したが縣会議員はそれ等の地方の仕事をするのが當然だからと云うて返金したも一ッ湯本の水道が好間江筋から分水する際も二十名程好間から縣に陳情反對したが湯本は三百六十五日飲料水に困まつて居る好間村民の(平も含む)反對は農繁時の灌漑水に困まると云うて反對するのだから社会問題として、心配すべき問題だとして當時、小生は平町民から非常な攻撃を大瀧發電所問題で受けて居つたが人道問題として仲裁に入り妥協せしめた當時、入山炭礦所長吉田宗雄氏は金一封を持參したが、小生遂ひに受取らずに返した、一二の例だが、平市会議長時代でも種々の問題があり又、縣議中にも一切運動費は一文でも貰つた事はない、それ故選擧の際、陣中見舞を警察署長の了解を得て貰い受けた、其の爲あまり、運動費も使わず三期、縣会議員をして身代限りをせぬのは小生、一人位と申しても憚らない外にも、木村清治さんの如きもありますが、先づ〳〵少ない方です。

現今でも恩を忘れず人に損をかけずと世間を渡つて居りますが、近頃或る会社の平商工会議所会頭中に地方工業援助の意味で二、三の会社の重役となり遂に借入れの保證をなし人にも話しの出來ない境遇に陥り苦心して居ります。今や七十六才の老境に入り是れもあれもと仕事を遣りたい事もありますが健康が許さず唯、人生は永遠性を持つ商売と云う事を若年から考え醤油屋と志したが。前陳の樣な次第で現在の自動車は玆百年や百五十年位は如何に化學が進歩しても、大丈夫とは考え本縣四つのバス会社に戰時中統合せられ、自力即ち地元の資本で經營して居るのは常磐交通だけで、他の三社は中央から他縣からの資本が注入されて居りますので、地方の利益を中央や他縣に奪わるる事なく各位の援助を得て獨立して經營して居ります。何卒今後共御指導御援助を蒙りたく御願いします。

小生は一昨年眼疾の爲東大病院で手術を受けましたが最近が、又々白内障が再發して新聞を讀む事を不得ただ題字だけを見て重要の處は讀んで貰う、主としてラジオを聽いて居ります、貴兄の新聞を愚妻が讀んで見ろと勸めがあり極度の眼境で十分位讀み少し休んで又讀むと云う有樣です。毛筆で字を書く事は出來ず万年筆なれば十分位認め休んで又書くということで、此の手紙も三時間位かかり認めた次第、貴兄とは懇談した事はないから何れ機会を見て一度懇談致しましょう吾々の二、三十才の十年と今日の一年位と化學の進歩で恩惠を受けて居りますので、人生は長生が第一の幸福で生活の安定を得て完全な幸福と存じます。

小生も今後十年位は長壽を保ちたいと考えて居りますクダラない事を亂筆にて。御容赦と共に御笑讀下さい

勿々謹言

◆縣議三期は十二年 (山)

駒忠事件旋風となり、颱風化す

市民は悪議員をリコールの準備中!! 前衛戦に入る

三代磐城丸暗礁に乗り上ぐ

カジ取り小野務平氷山の一角をさけ得るか

所謂駒忠事件はどうなつて居るかどう進展して居るか

◆一、刑事々件は、その後平検察廳の方に移り各被告、中田助役、草野惠正、長瀬議長、〇〇〇議員等家宅捜査を行なわれた由である。

こういう處置はとうに磐城署でやるべきで磐城署ではその手を打たなかつた、彼等被告の事だ逃走のうれいはあるまいが、證據煙滅、證據書類の僞造等は制めし前の事、あまり其の筋では時をおいて了つた、磐城署は自治警察でない、犯罪捜査、證據固めに熱がない、一体あの美しい建物を新造したのは、市民の寄金がなかつたのか、今少し市内治安に心してもらいたい、昔みたいに特高はなかろうから、事を未然に内査の要はなかろうが、一たん提訴されたら證據裁判の今日、何よりも證據固めが先決たる事は先決であろう、彼ら刑事被告の長瀬や草野、中田かくれた議員、そのうち、草野及び、かくれた金魁議員は八幡小路のめしを食つた事もあり、八幡小路へ呼び出されて不起訴になつたりした札つきの知れ者たる事は世人衆知の事實であるこの人間共がサギ、横領又は背任の罪等を犯す事は當然である、これが自己の地位を亂用して公職にどこまでも居すわる執着心が、彼等を刑事被告人と自らなつて了つたのである、草野は兎に角、長瀬でも金魂議員でも、市議立候補の挨拶文(ハガキ)に何と説明して居つたか、選擧人は勿論、自らを僞つて居る、あまりに市民を食つた言動である小野務平とは選擧區が異なるから彼の挨拶文は知らぬが、長瀬彰義、橋本佐多壽、全雄吉、箱崎瀧三郎、鈴木の分は保存して置く、御望みならば、發表してもよいかるが故に長瀬、兩橋本現議員に立候補當時の心境に立脚して、……市政に當つてもらいたい、かく磐城市をくらくして、どうするのだ、彼等は駒忠問題に忙殺されて、市の發展等とはツワの空、小名濱は眞に女心と秋の空で、天高くして馬肥ゆる候にならない、女心はやめろ、いつまでも地位にすわりたいのか、自らやめずんば、今のハヤリのリコールで長瀬議長鬼征伐の桃太郎さんの氣持は舊玉川村民に充滿しつゝある、それを知つてか、知らぬでかハイヤーを乘り廻して居る彰ちやんは可愛相なものである、農民は稲刈りや、麥まきで夜なべ、飯めし前畑うない、そんな事、かまつて居れないが、舊小名濱町民有志は何が故に小野務平議員のリコールの準備をせぬのか、勝敗は時の運、全力をつくして吾らの住む郷をあかるくするため、多少のかかり(金)と時間を犠牲にしても金魂議員征伐に邁進すべきである、筆者に對する惡宣傳、デマ、即ち駒木根忠敬氏から、志賀要平氏から等とを耳にするが敵は本能寺に在り、小野、長瀬の征伐に在るのだ、筆者の眞意は知らぬでデマを飛ばす群像はカ、トンボの樣なものだから寒くなれば姿を消すから氣にしないが長瀬の放言?即ち山野邊庄吉を生かして置けぬという事には警戒もして居るし、西君の立證言を期待して居る、そのうち正式な書類を磐城署長に呈出する

◆一、民事々件、被告四者とも應訴

三代市長の辯護士は、眞木長瀬議長には市井辯護士、草野惠正には增田辯護士、一方大越新の辯護士は常磐炭礦本社にはめんじようというむづかしい姓の顧問かの辯護士が居るそうだが判然裁判所の記錄に現われておらぬ、磐城市議会で去る十五日午後二時から緊急議会を開いて、應訴云々とかだが、議会運營委員長は小野務平、議長が長瀬彰義應訴費用一切は市に關係せずと決めた相だが、こんなからくり、あまり市民を馬鹿にして居る、批判の限りに在らずで、十四名の對策委員、益々あきれる。

(以下次號)

常磐炭礦木山さんの會見申込みに當分應じられぬ

平新報発行兼編輯人(眞立)山野邊庄吉

大越新君を社長とする常磐炭礦KK、磐城礦業所の總務部長社員、木山茂彦氏から私に会いたいから会う場所は平に指定して欲しいと同所の中島さん外一名を使いに岩出の私宅へよこした(私は不在)妻や長子泰秀が、中島さんの口上をうけたまわつた。その傳言によると私が湯本の磐城礦業所へ貴下を訪問した、貴下が何か都合あつて会わぬかつたとか、私は再刊以來四年間一度も礦業所を尋ねた事はない、一面識もない貴下から会見を申し込まれ、事に大分急を要するらしくあつたが、私は早速中島さん宛に此際木山さんに会いたくないからとハガキを出した然しハガキと行き違いに中島さんは自動車で私宅へ來られた由(此の日も早朝出平して不在)それから箱崎貞一も中島さん母堂に頼まれて態々出社して來た、会見場所は平市に指定して呉れとの事、用件は何か私には判斷に苦しんだ、私は貴下に会いたくないから貴下の会見申込みに應じないのである、あしからず御放念下さい、禮を知らざるものと御考いになればそれ迄だが……私の心境を本紙上で申し上げて置く。

一、かつて故山崎先生の追悼號を刊行すべく、それが費用として大越新君の東京の自宅宛に刊行費の一部の負擔方を願うた、その文面のうちに貴下がかつて平新報には廣告を出してならぬ、いや爾來廣告を出さぬ樣にと、中島さんに厳命した事をかいてやつた樣な記憶がする、關内正一氏、諸橋元三郎氏ら出資せぬというのだから出來る事なら大越新君に願つて見ようか……と下手に出て願うたのだ然るに彼大越君から何らの返事がない、それも常磐炭礦社長として負擔して呉れと願うたのでなく、二八会友として申し込んだのだから何も常磐会社の〇〇係貴下には關係ない筈である

一、嵩一大越君から貴下にその件でも話があつたらそれは社と個人と混同する……大越君の感違い方角違いである、何も恩師の追悼號を出すのだから私は大越君に強要したのではない、出來る事なら……と申し送つたのだから出來ぬなら出來ぬでハガキ一枚(五円)あつて然るべきである、禮を知らざるものとしたら大越君自身である、

一、經濟的、所謂、出世をするとどういうものか、エリ許つき合いになるらしい、竹村敎智君も然りで彼が下矢田の御寺の住職をして居つた頃舊姓谷津田として、私は良く懇ろにして居つたものだ、平新報も時折送附するのだが、禮状の一本もよこした事がない、そこえ行くと長瀬元治郎氏は當方より請求せんでも向うから平新報購讀料として送接される、實際この友情には感激する、筆は外れたが……木山さんが私に会いたいなら何が故に平に呼び出そうとするのか、貴下が眞に私に会いたいならハガキでも私によこして時間をきめて本社に足を運ばぬか、貴下の年齢は知らぬが私より若い筈だ、大越君も社長なら私も社長である、貴下の会見申し込みに應ぜぬ事は何も理由はない、貴下に誠意がない事は、はつきりして居る、待合政策はやめなさい、昔の平の色街の事なら、何人にも譲らない現在でも少しは判りかけている、こんな事を申して私は野崎滿藏翁でも蓮沼龍輔君でも、平に來たらよつて呉れと禮をつくして居るから訪問した迄で、出平して訪問しなけりや、これこそ私がエチケットがない事に思われる、兎に角貴下も御察内だろうが私は半農半文の生活で百姓は今の處一面にもかいた樣に猫の手もかりたい折貴下等の如く、炭礦人とは別世界の農村である殊に駒忠事件で惡魔と力鬪して居る、筆先をにぶらさないで呉れ、貴下会社社長大越新君も被告(民事)たる事も御判りだろうし貴下と私は趣味が反對の樣である

平紅謠歌

浮川竹の浮き勤め義理では引けど、三味線の愛(へいとし)可愛の只一人、だいて根締めの相の手に末は夫婦(めのと)と二世かけて、何の契(ちぎり)をたがやせぬ、好いた同志のなか〳〵に浮世の淵瀬(ふじせ)浮き傳い浮名流すも戀故に苦勞するも戀の世や 私は歌詩するが、井坂君の樣に三味線は引けない然しあの三スジの音は好きだ、殊に男性が引くのだら尚よい、故大井川幸隆君の甥は良く引く地方御祭りには必ず女性二人をつれてやつて來る、又來年も來て呉れ給え、大いに歡待するよ、忙中閑あり、晴耕雨讀なんて昔の事だ、農民はいつも下積みだ、常磐炭礦重役稲刈り出來るかね出來るなら一時間でも良い願みたいものだ、札は食われませぬこれから青田をつぶしてボーリンを下すそれも政府から補助金をうけてやる如き暴擧の營業政策はあらためるべきだ。いつかは農民ののろいの的となる事を予告して置く故山村暮鳥氏は歌つた炭礦の煙り盛んになれば農村はさびれると喘々

恩師蛭田先生を囲んで 十五年組同級会

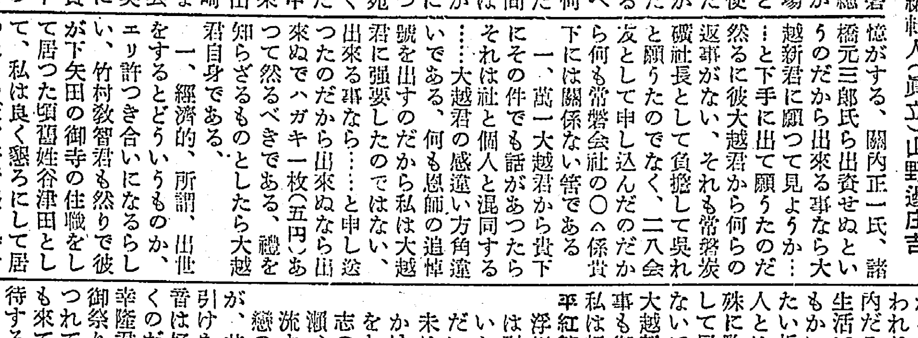
[illegible]

十五日

同級会長 佐川儀兵衛様

蛭田三郎

七十七才の祝に 矢吹翁花嫁衣裳寄付



[illegible]

有名人 智能をしぼれ

[illegible]

實を結ぶ結婚 簡粗化

[illegible]